空知の農業

【空知農業の概要】

管内は、耕地面積が 11 万 3,122ha(R6)と全道の約 10%を占め、豊かな水資源と広大な農地を活用し、全道一の作付を誇る稲作を主体に地域の特色を活かしながら、小麦・大豆など土地利用型の畑作や野菜・花きなどの園芸を取り入れた多様な水田農業を展開しています。

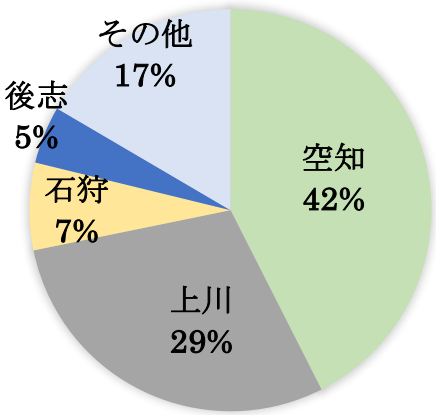
管内の販売農家戸数は、5,596 戸(R2)と全道(32,232 戸)の約 17%を占めていますが、高齢化の進行や後継者不足などから年々減少しています。

また、管内の農業産出額(推計)は、水稲や野菜を中心に 1,082 億円(R5)と全道の約８%を占めています。

【水稲（全道一の米どころ)】

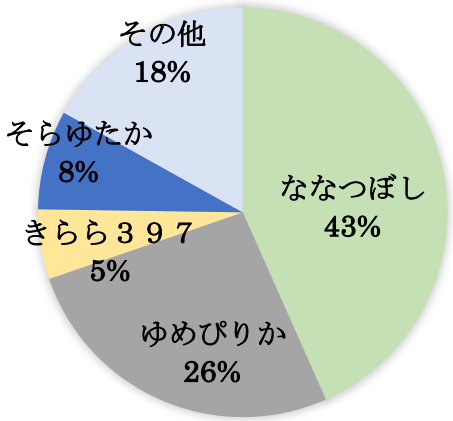
水稲の作付面積は、4 万 428ha(R6)と全道の約 42%を占めています。なお、管内における水稲作付面積のうち、「ななつぼし」が約 43%、全国的に知名度の高い「ゆめぴりか」が約 26%となっています。

R5産水稲の作付面積比率



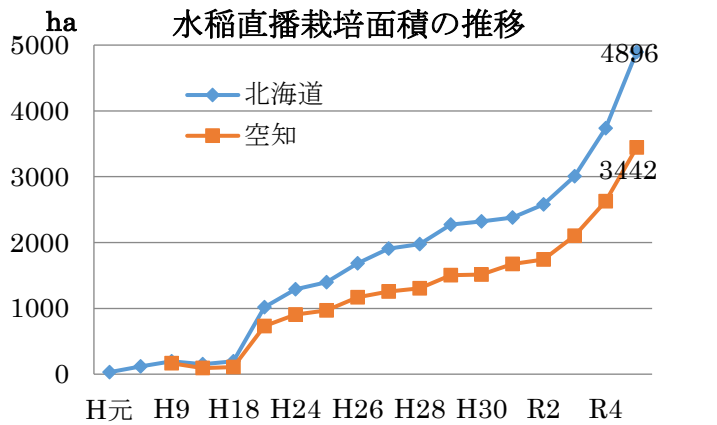
※北海道農林水産統計年報

管内水稲主要品種の作付状況



※道農政部調べ

全道一の米産地である空知では、農家の規模拡大が進んでいることから、ビニールハウスでの育苗など、春に行う作業を省略できる水稲直播き栽培の増加や、苗の移植密度を下げることによって育苗コスト等の低減・省力化を目指す疎植栽培の実証試験を行うなど、省力化技術の導入に取り組んでいます。



※道農政部調べ

また、安全・安心かつ地域の特色や個性を活かしたこだわりのプライベートブランド米の生産・販売も展開されています。

田植え作業

【畑作物（転作を中心とした一大産地）】

畑作物については、水田の転作作物である小麦や大豆などが多く、特に大豆は十勝に次いで道内２位、小麦は十勝・オホーツクに次いで道内３位、そばについても上川に次いで道内２位の作付面積を誇っています。

また、野菜や花きは、水田農業における所得確保の手段として作付され、はくさい、メロン、きゅうり、ねぎ、アスパラガス、いちご、りんご等が道内有数の産地となっています。

大豆の収穫作業

項　　目		空知管内	全　道	全道比
農業産出額（億円）		1,082	13,476	8.0%
販売農家数（戸）		5,596	32,232	17.4%
耕地面積		113,122	1,138,000	9.9%
	田（ha）	90,801	220,700	41.1%
	畑（ha）	22,266	917,300	2.4%
作付面積	水　稲（ha）	40,428	95,000	42.5%
	小　麦（ha）	23,110	132,000	17.5%
	大　豆（ha）	10,127	46,800	21.6%
	そ　ば（ha）	6,110	26,100	23.4%
	野菜類（ha）	3,533	40,964	8.6%

農業産出額/農林水産省「生産農業所得統計」(R5)、販売農家数/農林水産省「農林業センサス」(R2)、耕地面積及び作付面積/農林水産省「農林水産関係市町村別統計」(R6)※野菜類のみ北海道農政部「主要野菜作付実態調査」(R5)

【農業農村整備の推進】

管内では、泥炭土壌が多いことなどから、農産物の安定生産や品質向上のための排水改良及び作業効率の向上のため区画の拡大が必要とされています。

そのため、区画整理や暗渠排水、用排水路の整備などの農業農村整備事業に積極的に取り組んでいます。

＜施工写真＞

〈区画整理〉

〈暗渠排水〉

〈農業用用排水〉

暗渠排水の整備によって、農地の水はけを良くすることで、病害虫の発生が抑えられ、安全で良質な作物の生産が可能となります。また、農地の大区画化や農道の整備などにより、スマート農業への対応や農作業・作物輸送の効率化が図られ、高収益作物の導入や農産物加工などの６次化の活動を行うことができる時間的余裕が生まれます。

このように、農業農村整備事業を推進することで、高品質な作物を生産することができ、また、農村地域の活性化に向けた多様な活動が創出されるのです。

【スマート農業の普及推進】

スマート農業とは、労働力不足などの生産現場の課題を、AI や ICT 等の先端技術を活用して解決しようとするもので、「自動走行トラクター」や「自動水管理システム」などが注目を集めています。

スマート農業の普及に向けて、管内の各地域で協議会等が設置されているほか、令和３年 12 月には、管内全体で取組を進めるため、各地域協議会や農業関係団体、研究機関等で構成する空知スマート農業推進協議会（事務局：空知総合振興局）を設置しています。

【グリーン・ツーリズム等都市と農村の交流促進】

札幌に近い優位性を活かして、農業体験や直売所、ファームレストラン、観光農園などの日帰り型の施設に加え、修学旅行生の受入などの滞在型の施設も多く、こうしたグリーン・ツーリズム関連の施設は 502 と全道一で、道内施設数の約２割を占めています(R3)。修学旅行生の受入も進んでおり、特に、受入に当たって広域的な窓口・調整機能を担う「そらち DE い～ね」の取組や特区制度を活用した長沼町の取組などは、道内の先進的な事例として注目されています。

また、管内では地産地消の取組も広がっており、地域の食材を活用したこだわりのお店を認定する「北のめぐみ愛食レストラン」制度には 29 軒が登録(R7 年４月 30 日現在)され、とれたての農産物や農産加工品を販売する産直事業者数は、66(R7 年３月 31 日現在)にのぼります。

［コラム：空知スマートアグリシンポジウム］

空知総合振興局では、管内全体のスマート農業に対する意識の向上を目的に、2021 年よりスマート農業の現状や先進地域の取組等を紹介する「空知スマートアグリシンポジウム」を開催しています。

官民共催により開催することで、空知管内の優良事例はもちろん、北海道では把握しにくい、最先端のサービスを開発・提供する首都圏の事業者や、道外での活用状況を紹介できる有識者による講演や、オンラインで接続した道外のパネラーを交えたパネルディスカッションを実施し、サービスの展開方針や実際の使用感等を参加者と共有できるようにプログラムを設定しています。

シンポジウムについては、各年度それぞれ開催テーマを設定の上、以下の内容で開催しました。

令和３年度（2021 年度）　水田の水管理システム
令和４年度（2022 年度）　農業用ドローン
令和５年度（2023 年度）　中山間地における通信技術
令和６年度（2024 年度）　スマート農業技術のシェアリング・広域利活用

シンポジウムの様子は、空知総合振興局空知スマート農業推進室のウェブサイト（https://www.sorachi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/num/sorachismart.html）にて、配付資料やシンポジウムの様子を記録した動画を掲載していますので、是非一度ご覧ください。

【空知産農産物ブランド化の推進】

空知では、空知地方総合開発期成会、空知管内農業協同組合長会、空知総合振興局で構成する「空知産農産物ブランド化推進会議」により、夏と秋に、「北海道四季マルシェ」で空知のこだわりの農産物や地域の特産品をPR・販売する「空知フェア」を開催しています。フェアでは、米のすくい取りなど人気企画によりリピーターも多く、野菜や果物、加工品など「空知の魅力」を沢山のお客様にお届けしています。

令和６年度は、「JR 北海道フレッシュキヨスク（株）」、「（有）水戸青果」協力の下、夏に空知のメロンや有機栽培野菜、農産加工品のフェアを開催、秋には「米どころ空知」だからこそ出来る毎年恒例「米のすくい取り」を実施し、多くのお客様にご好評いただきました。

今後も関係者が一丸となって空知の魅力発信に取り組んでいきます。

［参考］空知管内の主な農作物収穫時期カレンダー

作物名	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
水稲											
小麦											
大豆											
小豆											
馬鈴しょ											
そば											
トマト											
ミニトマト											
きゅうり											
かぼちゃ											
たまねぎ											
ねぎ											
はくさい											
キャベツ											
すいか											
メロン											
いちご											
ブロッコリー											
アスパラガス											
りんご											
なし											
ぶどう(生食)											
ぶどう(醸造)											
おうとう											
プルーン											
ブルーベリー											

R3 農業改良普及センター調べ